



子どもたちの笑顔のために

～「何ができるのか」を考える～

校長 中里 純子

「校長先生、マジック、上手だったね。」「朝会でマジックを見せてくれてありがとうございます。元気が出ました。」大人でも褒められると嬉しいものです。子どもの満面の笑顔とともに、こちらまで笑顔になりました。分散登校が長引き、何となく元気がない子どもたち。「子どもたちの笑顔を少しでも取り戻すために何ができるのか。」～私は、朝会でマジックを披露しようと思立ちました。夏の間のおこもり時間で息子から教えてもらったマジックです。まだまだ技能不足の私は結構練習をし、当日もかなり緊張して臨みました。

次の週からは、副校長先生の司会で「笠間小 お昼のトークショー」も始まりました。「給食中はマスクを外したらおしゃべりをしません、というルールをしっかりと守り頑張っている子どもたちのために何ができるのか。」～日頃子どもたちと関わる機会の少ない教職員を中心に、テレビ放送を通して話をしてもらうことにしました。先日は、事務職員から子どもたちに、校内で見つけたドングリの話がありました。子どもたちは、お昼のこの時間を楽しみにしているようです。



「Aグループの友達に会いたいな。」「Bグループの友達と一緒に勉強したい。」分散登校が続く中で出てきた子どもたちの声です。黒板や付箋にメッセージを残して帰るクラス、折り紙で気持ちを伝え合うクラス、ロイロノートを使ってメッセージをやり取りするクラスが出てきました。集団の中で互いに学び合う喜び、仲間と一緒に活動する楽しさを子どもたちは求めているように思います。学校の存在意義を改めて感じる機会ともなりました。「クラスの仲間と学びたがっている子どもたちのために何ができるのか。」～オンライン交流会にトライしてみようということになりました。まずは、職員会議を Google meet で試してみました。オンライン交流会は5・6年生から段階的にはじめ、全てのクラスで試すことができました。保護者の皆様にもご協力いただきありがとうございました。「顔が写ってる!」「声が少し遅れて聞こえるよ!」「みんな教室にいるみたい!」子どもたちの歓声があがります。一人ひとり呼名し返事をしてもらう、じゃんけんゲームをする、クイズ大会をする、日直さんの話を聞く、オンラインレクリエーションをする等、教室は笑顔であふれていました。

緊急事態宣言が解除され、本日からやっと通常登校に戻ります。今後も、感染防止対策に十分留意しつつ、「子どもたちの笑顔のために、何ができるのか」を考えながら教育活動にあたって参りたいと思います。分散登校中は、保護者の皆様、地域の皆様には様々な面でお世話になりました。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。